



まちのトレジャーハンティング@岡崎

都市戦略をぶちかませ！

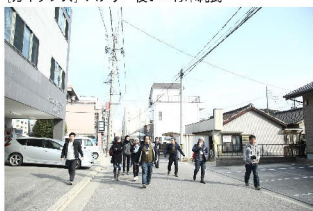
概要報告

【日時】2017年2月18日（土）、19日（日）

【会場】岡崎シビコ（CIBICO）6F（岡崎市康生通西2丁目20番地2）



【ガイダンス】ハンター使い・青木純氏



【まち歩き】ユニットE（乙川エリア）



【ユニットワーク】ユニットA（CAエリア）



【報告会】ユニットマスターによるトークバトル



【トークライブ】



【報告会】

参加者データ | Data

【トレジャーハンティング参加者】40名（応募者82名）

【スタッフ】46名（うちボランティアスタッフ26名）

【公開報告会参加者】189名

プログラム | Program

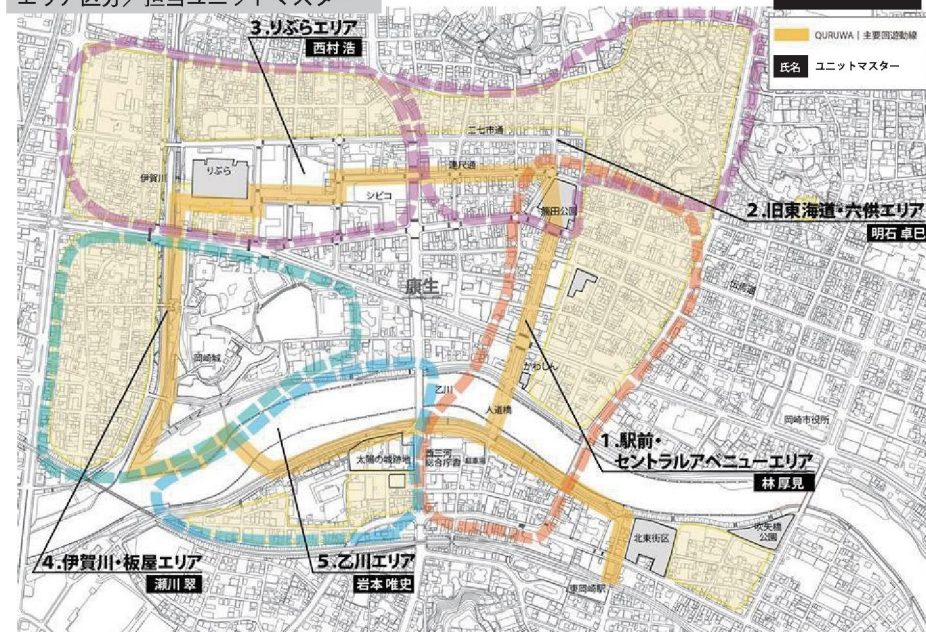
2月18日（土）

- 9:30～ 受付開始
- 10:00～10:30 開会式 | ガイダンス
- 10:30～17:30 まち歩き・ユニットワーク①
- 18:00～20:00 オープニングパーティー@wagamama house

2月19日（日）

- 9:00～14:00 まち歩き・ユニットワーク②
- 14:00 データ提出
- 15:00～17:00 まちのトレジャーハンティング報告会
- 17:00～17:45 トークライブ
ゲスト | 柿原優紀（Trakusa 株式会社代表）
影山知明（クルミドコーヒー店主）
- 17:45～18:00 閉会式
- 18:30～20:00 クロージングパーティ@アควアガーデン迎賓館 岡崎

エリア区分/担当ユニットマスター



エリアごとの提案内容

A. (仮称) セントラルアベニューエリア

現状認識

2020年までに、東岡崎駅前と中心市街地をつなぐ南北の軸線として乙川には人道橋が掛けられ、その先の中央緑道と籠田公園も再整備されることが決定しています。

課題設定

現在このエリアは、通勤通学の人を除けば人通りは少なく、まちのにぎわいを感じられなくなっています。そんな中、橋や公園がきれいに整備されたからといって、それだけで人が訪れるようになるのでしょうか。

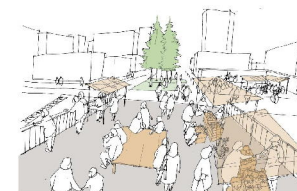
提案

そう考えたとき、周辺で暮らす人、この場所を使う人、訪れる人一人ひとりが再整備されるこれらの場を「自分のニワ」として捉えて、親しみを持つことが必要です。

「ニワ」とは、自分たちが手入れをして、日常的に使う場所。そして、自分たちのやりたいことが自由にできる場所と居心地のよい場所を自ら創りだしていくという意味です。

誰もが見て感じ取れるこれらの公共空間を、「自分のため、みんなのための空間」として位置づけ、市民が主体となって自由に活用運営できる公共空間の新しい仕組みをつくっていきます。

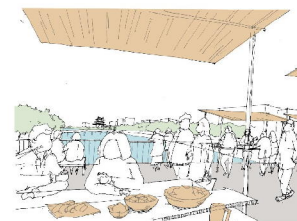
合言葉は、「公園を民園に」。



にぎわいを生み出す使い方（人道橋）



いろんな人が同時多発的に集まる（籠田公園）



動線よりも交流の広場として使える（人道橋）

B. 旧東海道・六供エリア

現状認識・課題設定

連尺通り・二七市通りでは、リノベーションまちづくりにより、空きテナントや空きビルを活用した民間の動きがあり、すでに変化が起り始めています。

一方で、変化の兆しのある範囲から歩いて数分の距離には、戦災で焼け残った木造密集地区（六供・花崗）が丘の上まで広がっています。狭い路地は車が通れませんが、子どもが安心して遊べる場所であり、暮らしがにじみ出すような雰囲気が感じられます。しかし、この地区は、高齢化の進行や再建築不可な敷地が多いことから、空き家・空き地が増え続けています。

提案

そこで、この地区に点在している空き家・空き地に、ここにしかない暮らしの息づかいが感じられる住まい方や働き方に価値を感じる人を集めて、「職住隣接」の暮らしを実現し、木造密集地区から連尺通り・二七市通りへと人の流れをつくり、「住むこと」から商業の活性化を目指します。



暮らしの一部をシェアするみんなのリビング



子連れでも働ける近所の見守り付きのオフィス
木造密集市街地



木造密集地区から連尺・二七市への流れをつくる

D. 伊賀川エリア

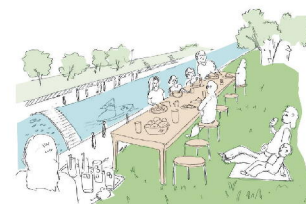
現状認識・課題設定

国道と河川によって周囲と分断されているこのエリアは、岡崎城や八丁味噌などの観光資源や伊賀川の豊かな河川空間に近い場所に位置しているにも関わらず、エリア内に入ると、それらとのつながりがほとんど感じられません。しかし、ここからは伊賀川の河川敷を移動することによって「リぶら」にも「シビコ」にも大きな道を渡らずに、車も使わずに行ける大きな強みがあります。

提案

そこで、このエリア最大の特徴である、伊賀川や岡崎城の豊かな自然環境を最大限に活かし、楽しみ、使いこなす暮らし方が「遊ぶように働く超職住近接ライフ」。物理的な条件で周辺エリアとは隔てられたことを逆手に取った、公園の中に暮らしているような、遊びと暮らしが近づいた、ここだけの特別な暮らし方。

この場所の魅力を最大限活かすような暮らしによりエリアの価値を向上させることで、住みたい人も、店舗も増えていき、岡崎城や八丁味噌への観光客も訪れるようになり、まちに回遊性が生まれます。



【朝】住人も観光客も一緒に食べる河川敷での朝食



【昼】通勤時間短縮で浮いた時間を河川敷で過ごす



【夜】大人の時間を楽しむ

C. リぶらエリア

現状認識

「リぶら」には年間のべ140万人の利用者が訪れ、親子連れや中高生、高齢者など老若男女が日常的に利用しています。

一方、その近くにある商業ビル「シビコ」は「あいとりエンナーレ」の開催によってアートや音楽の場所だという意識が生まれています。

課題設定

「リぶら」には毎日たくさんの方が訪れているので、その人たちが「シビコ」や康生エリアなどのまちなかに足を運ば、まちはもっとにぎやかになると考えました。

提案

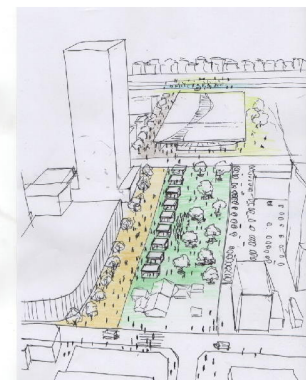
そこで私たちは、「Park/ing」プロジェクトと題して、学びの場所である「リぶら」と、アートの拠点である「シビコ」をつなぐ場として、2つの建物の間にある駐車場を公園化し、子どもやアーティストが表現し成長できる場所にすることを提案します。

英語では、公園も駐車場も同じ「Park」です。今は車を停めているスペースを、人が留まる場所に作り変えたいです。

Park/ing



リぶらとシビコの間にある駐車場を公園化



リぶらからまちなかににぎわいを取り戻す

E. 乙川エリア

現状認識・課題設定

殷橋のたもとから見える豊かな水辺空間と岡崎城の風景は、水源地・額田からつながる豊かな自然やこの地で脈々と受け継がれてきた歴史・文化を象徴する、岡崎市民にとって誇るべき宝です。それなのに、私たちは川をただ通り過ぎるだけで、宝の持ち腐れになっているのではないのでしょうか。

提案

そこで、Quruwaの中でも重要な通過交通との結節点である殷橋橋詰と太陽の城跡地に、車中心の生活を送る多くの市民が川に関心を持つきっかけとして、人が楽しんでいる風景をつくります。思わず立ち寄ると、そこは岡崎城と乙川が一望できる特等席。ジョギング、ヨガ、SUP、読書、ノマドワーク、デートなどの舞台を用意し、日常の一部を水辺にいざないます。

お城を望む水辺で行う「普段の営み」は、いつもより一層豊かになり、そうした豊かな営みが水辺ににじみ出すことで、まちの風景が豊かになります。それが新たに人を招く。人が集まることで川への関心が高まり、川をきれいにしようという意識も芽生えるでしょう。そんな水辺と人との関係を結びなおします。



通過交通との結節点・殷橋橋詰＝戦略的拠点



殷橋橋詰に人が楽しんでいる風景をつくる



お城や川が眺められるデッキから水辺へ誘う